



# お経のことば

もしも汝が、賢明で協同し行儀正しい明敏な同伴者を  
 得たならば、あらゆる危難にうち勝ち、こころ喜び、  
 気をおちつかせて、かれとともに歩め。

スッタニパータ 45節 訳 中村元<sup>ハジメ</sup>

今回のお経は、今まで紹介した法華<sup>ホケキョウ</sup>経や維摩<sup>ユイマキョウ</sup>経などの大乘經典とは趣を異にする、南伝仏教のパーリ仏典を紹介します。

パーリ仏典は別名パーリ三蔵<sup>サンゾウ</sup>とも言われ、三蔵とはお経そのものの経蔵<sup>キョウゾウ</sup>、当時の出家者の戒律や集団生活の規律などをまとめた律蔵<sup>リツゾウ</sup>、そして小難しい哲学が列挙された論蔵<sup>ロンゾウ</sup>の三つの構成になっています。

西遊記のモデルとして有名な玄奘<sup>ゲンジョウ</sup>は、中国仏教に於ける三蔵をしっかりと学び修めた高僧という意味で玄奘三蔵法師と呼ばれています。

うえのお経の言葉は、パーリ三蔵の中でも経蔵に属し、さらにその5部からなる経蔵の中の小部に収められています。実は、寺報第1号で紹介したダンマパダもこのパーリ経蔵小部に属し、スッタニパータと共に幾つかの原始經典の一部として近年注目され、これらは『ブツダのことば』と呼ばれます

スッタニパータの35節から75節までは『犀の角』という項目でまとめられていて、内容の違いはあっても、45節以外の文の終わりは全て「犀の角のようにただ独り歩め。」となっています。ところがこの45節だけ例外的に「かれとともに歩め。」となっていて、一際不思議な印象を与えています。

うえの言葉の中の『同伴者』とは本義では出家した僧侶という意味ですが、敢えて広く解釈して、友や仲間という意味で捉えても、そんな理想の同伴者はなかなか巡り合えるものではないでしょう。率直に言ってこの文からは、他人を見る目が厳しい、ある種潔癖な態度を要求されている感が否めません。

確かに、このスッタニパータは2500年前のブツダ存命時の厳格な出家者の指針を示した經典であり、現在でこそ書物として読まれています。当時は言葉通りの丸暗記、つまり何度も何度も口に出して暗唱していたのです。そしてその内容はこれでもかというほどに孤独を讃えています。

でも逆説的に考えると、孤独を強く肯定して讃えることによってしか孤独を耐えることができなかったのではないかと、修行に人生の全てを賭けた僧侶達の切実な思いが窺えます。

そんな、孤独を強いる『犀の角』の中で、まるで一筋の光を放っているかのような「かれとともに歩め。」の文言・・・。

私はそれを希望だと思えます。

近年は原始經典が世間一般に読まれるようになって久しく、現代人の求める合理性にも応える文言が確かに見受けられます。しかし、その一方では原始仏教の本意には当時の未熟な文明社会に対しての厭世感があることを忘れてはなりません。

けれども、ほんの一筋の光、つまり希望をお釈迦様は認めています。それは何も理想の同伴者を待ち望むのでは無く、そう在ろうとしてお互いに協同し合うという、『関わり合い』の可能性を謳っているのかもしれない。



## お知らせ

- 10月5日～10日 富士山峰入修行  
住職不在となりご不便おかけ致しますことご了承ください。
- 10月下旬頃 大滝山散策（詳細未定）
- 毎月28日 柱源護摩供<sup>ハシラモトゴマク</sup>

柱源護摩供は午前9時と午後3時の2回、参加費等無料です。

※葬儀が重なると変更される場合があります。

本山修験宗 大瀧山 護国寺  
781-2155  
高知県高岡郡日高村九頭291  
☎ 0889-24-7244  
ホームページ [gokokuji.site](http://gokokuji.site)  
仏事に関してのお悩み、ご質問、  
行事に関するお問い合わせ等、  
お気軽にお電話ください。

